

2020年8月14日

各 位

会社名 フィーチャ株式会社  
代表者名 代表取締役社長 CEO 脇 健一郎  
(コード番号：4052 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 CFO 横田 和之  
(TEL.03-6907-0312)

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせします。

記

○開催状況

公開日時 2020年8月14日(金) 15:30

開催方法 決算説明動画のオンライン配信

動画掲載場所 当社ホームページ (URL：<https://youtu.be/Dkq6hjd038E>)

説明会資料名 2020年6月期 通期決算説明資料

【添付資料】

投資説明会において使用した資料

以 上



# Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、  
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

## 2020年6月期 通期決算説明資料

フィーチャ株式会社（東証マザーズ4052）

2020年8月14日

1. 会社及び事業の概要
2. 業績ハイライト
3. 2020年6月期（通期）決算概要
4. 今後の業績予想と成長戦略

## Appendix

- ・外部環境
- ・技術／製品 OVERVIEW
- ・技術／製品の適用事例
- ・四半期決算情報
- ・経営体制

本資料の数値はすべて連結ベースで記載しております。

# Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、  
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

# 1. 会社及び事業の概要

## 2. 業績ハイライト

## 3. 2020年6月期（通期）決算概要

## 4. 今後の業績予想と成長戦略

### Appendix

- ・外部環境
- ・技術／製品 OVERVIEW
- ・技術／製品の適用事例
- ・四半期決算情報
- ・経営体制

# Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、  
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。



社 名 フィーチャ株式会社

代 表 者 脇 健一郎（代表取締役社長CEO）  
曹 暉（代表取締役CTO）

住 所 東京都豊島区東池袋3-1-1 サンシャイン60 19F

創 業 年 月 2005年8月

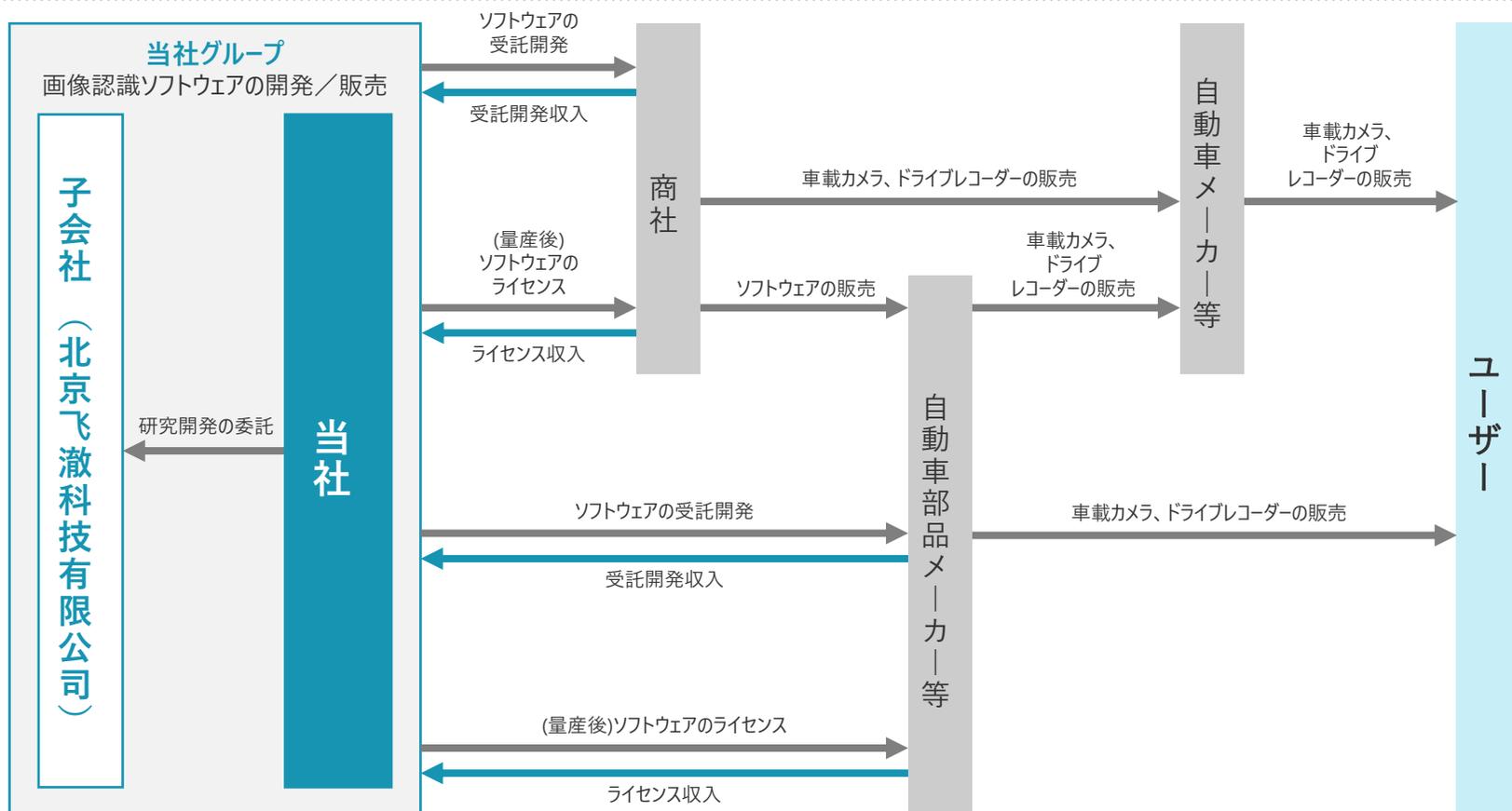
資 本 金 248,880千円

従 業 員 数 35名（非正規 14名）

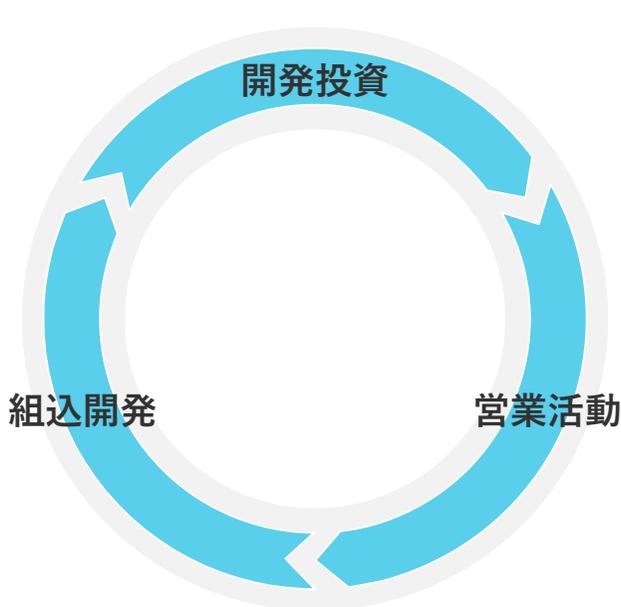
事 業 内 容 画像認識ソフトウェア開発 / 販売

顧客	車載カメラ、ドライブレコーダーメーカー
製品	歩行者／車両／標識検出、運転手監視などの画像認識ソフトウェア
収益	受託開発収入／ライセンス収入

事業系統図



③  
量産開始 → **ライセンス収入**  
搭載数量に応じて、  
ライセンスロイヤリティを受領



①  
独自アルゴリズムの進化  
車載ソフトウェアに  
特化した研究開発活動

②  
量産案件獲得 → **受託開発収入**  
顧客の車載カメラやドライブレコーダー向けにカスタマイズ／実装

$$\text{売上高} = \text{受託開発収入} + \text{量産台数} \times \text{ライセンス単価}$$

- 歩行者、車両、標識などを検出する車載カメラ及びドライブレコーダー向けソフトウェアに注力。豊富なノウハウを蓄積し、更なる進化へ。
- 画像認識AIに特化した高い専門性と量産機器に実装可能なソフトウェアラインナップが強み

## コンピュータビジョン

画像認識に深い専門性

### ディープラーニング(DL)

- 精度が高く、機能も多様
- CPUのみでの動作可能

車載向けベンチマークテスト

歩行者検知 **1位**

2020年4月時点

### 非ディープラーニング

- 非力なLSIに実装可能

車載向けベンチマークテスト

非DL  
歩行者検知 **1位**

2016年6月時点

### 画像処理

- 画質調整
- カメラアプリ
- 前処理等

## 組込ソフトウェア (エッジAI)

組込実装性に優れたソフト

## 車載用ADASカメラ、ドラレコ

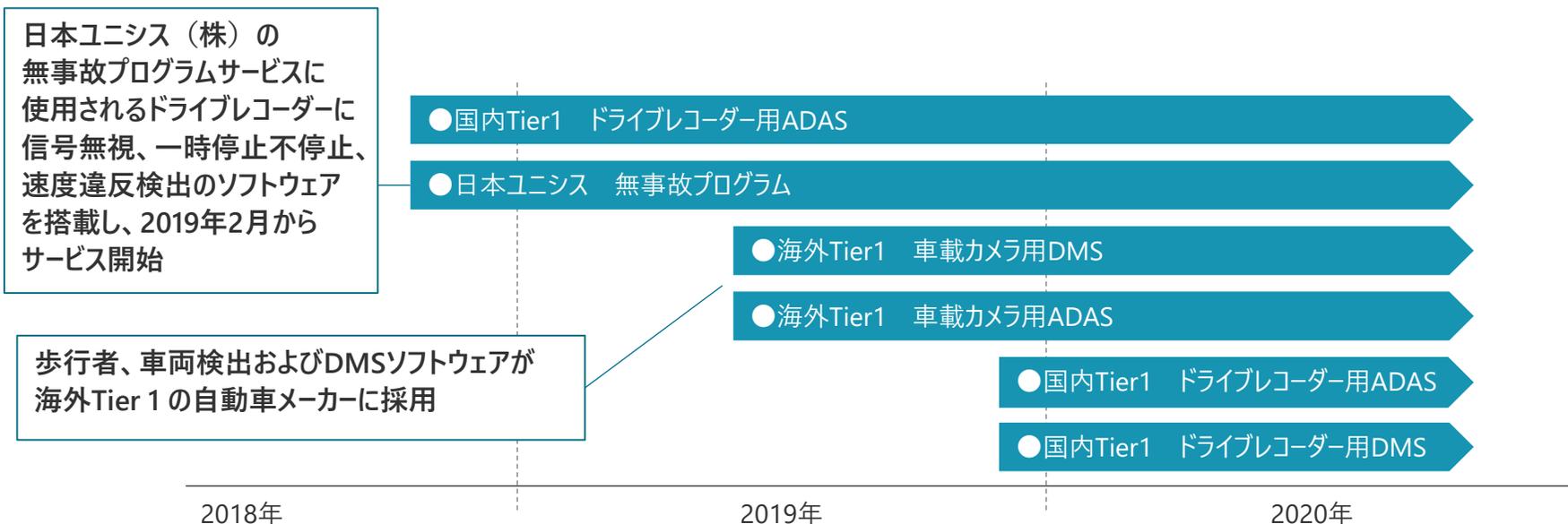
量産製品への採用実績複数

- 車載カメラやドライブレコーダーの低スペックなLSI上で動作可能な非ディープラーニングからディープラーニング、あるいはそれらを組み合わせたハイブリッドまで、用途、環境に対応したソフトウェアラインナップ。



	非ディープラーニング	ハイブリッド (非DL+DL)	フルディープ ラーニング lite	フルディープ ラーニング
ハードウェア	CPU			GPU DL-ACCELERATOR
認識機能	<b>物体検知</b> 四輪車・二輪車歩行者・動物信号・標識			<b>物体検知</b> +その他の障害物
	<b>車線検知</b>			
	-	<b>ドライバーモニタリング</b> 特徴点・顔向き・目線・居眠り・危険動作・年齢・性別・顔認証		
	-	-	<b>フリースペース検知</b>	
	-	-	-	<b>セマンティック セグメンテーション</b>
応用例	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ドラレコ運転支援機能</li> <li>• 衝突被害軽減ブレーキ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ドラレコ運転支援機能</li> <li>• 衝突被害軽減ブレーキ</li> <li>• ドライバーモニタリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ドラレコ運転支援機能</li> <li>• 衝突被害軽減ブレーキ</li> <li>• ドライバーモニタリング</li> <li>• 自動駐車支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動駐車支援</li> <li>• 自動運転</li> </ul>

■ 当社の画像認識ソフトウェアは、その実装性能を評価され、車載カメラやドライブレコーダーに採用され、量産化



1. 会社及び事業の概要

2. 業績ハイライト

3. 2020年6月期（通期）決算概要

4. 今後の業績予想と成長戦略

## Appendix

- ・外部環境
- ・技術／製品 OVERVIEW
- ・技術／製品の適用事例
- ・四半期決算情報
- ・経営体制

# Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、  
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

## 業績概況

□ 売上高419百万円（前期比48.6%増）、営業利益98百万円（前期は営業損失3百万円）

○ライセンス収入

- ・市場拡大に伴い、ドライブレコーダーの販売が好調
- ・新車用車載カメラの量産開始（2019年7月）
- ・海外市場（中国）における量産開始（2019年7月）

○受託開発収入

- ・交通インフラ関係の受託開発収入を初計上（2019年8月）

□ 業績予想比では、新型コロナウイルス感染症の影響が想定より軽微であったことにより予想を超過

## トピック

□ 東証マザーズ上場により71百万円を調達（2020年6月）

1. 会社及び事業の概要

2. 業績ハイライト

3. 2020年6月期（通期）決算概要

4. 今後の業績予想と成長戦略

## Appendix

- ・外部環境
- ・技術／製品 OVERVIEW
- ・技術／製品の適用事例
- ・四半期決算情報
- ・経営体制

# Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、  
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

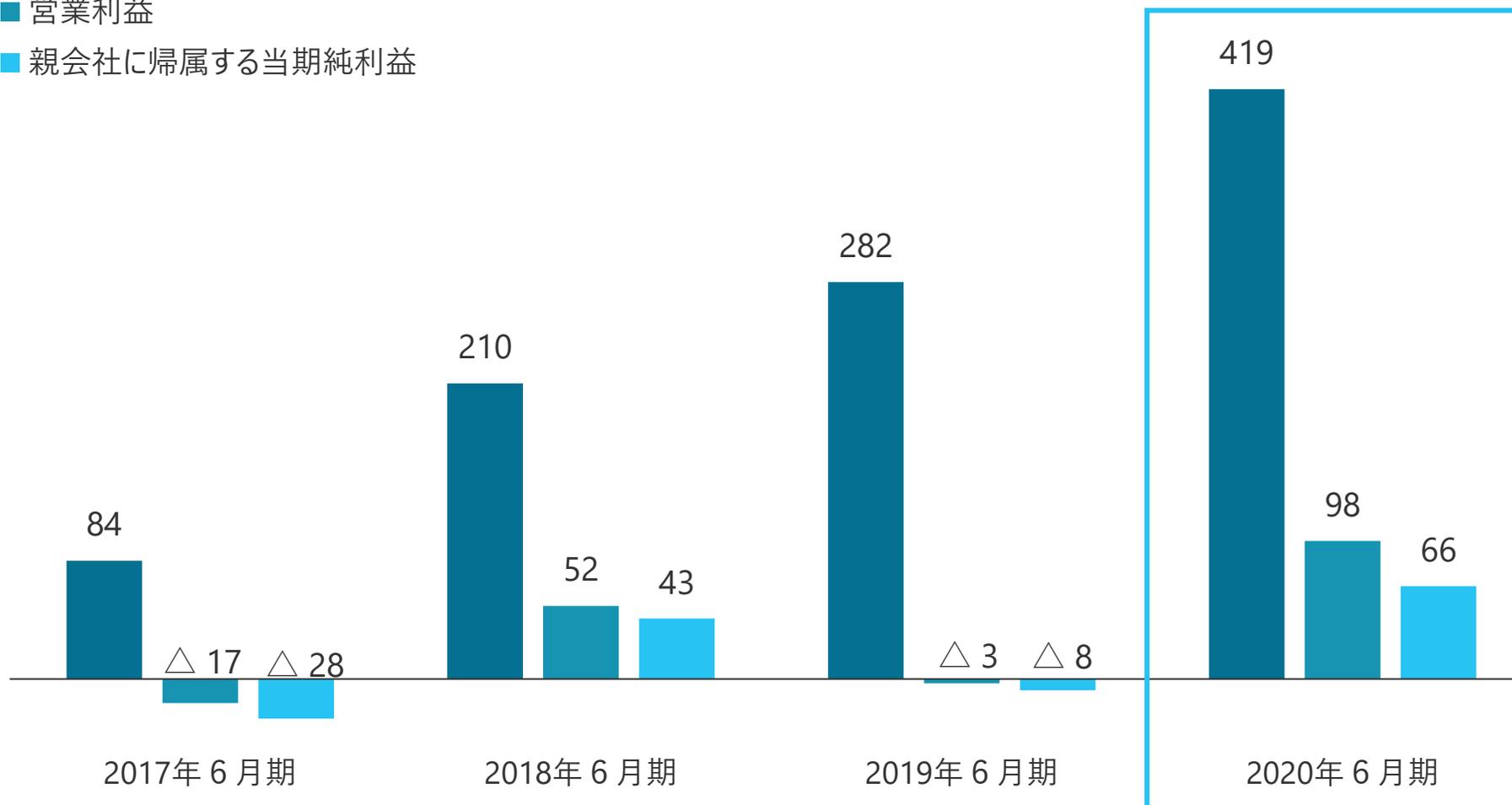
(単位：百万円)

	2019年6月期	2020年6月期			
	前期実績	当期実績	前期比	当期予想	予想比
売上高	282	419	+48.6%	403	+4.1%
うち、受託開発収入	223	285	+27.9%	—	—
うち、ライセンス収入	58	133	+127.0%	—	—
売上原価、販管費	285	321	+12.3%	330	△2.8%
うち、人件費	171	193	+12.8%	—	—
うち、経費	104	123	+18.0%	—	—
うち、仕掛品振替	9	4	△57.4%	—	—
営業利益	△3	98	—	72	+35.5%
経常利益	△5	90	—	63	+43.2%
親会社株主に 帰属する当期純利益	△8	66	—	41	+59.9%

過去 3 期の売上高平均成長率は77.8%増

- 売上高
- 営業利益
- 親会社に帰属する当期純利益

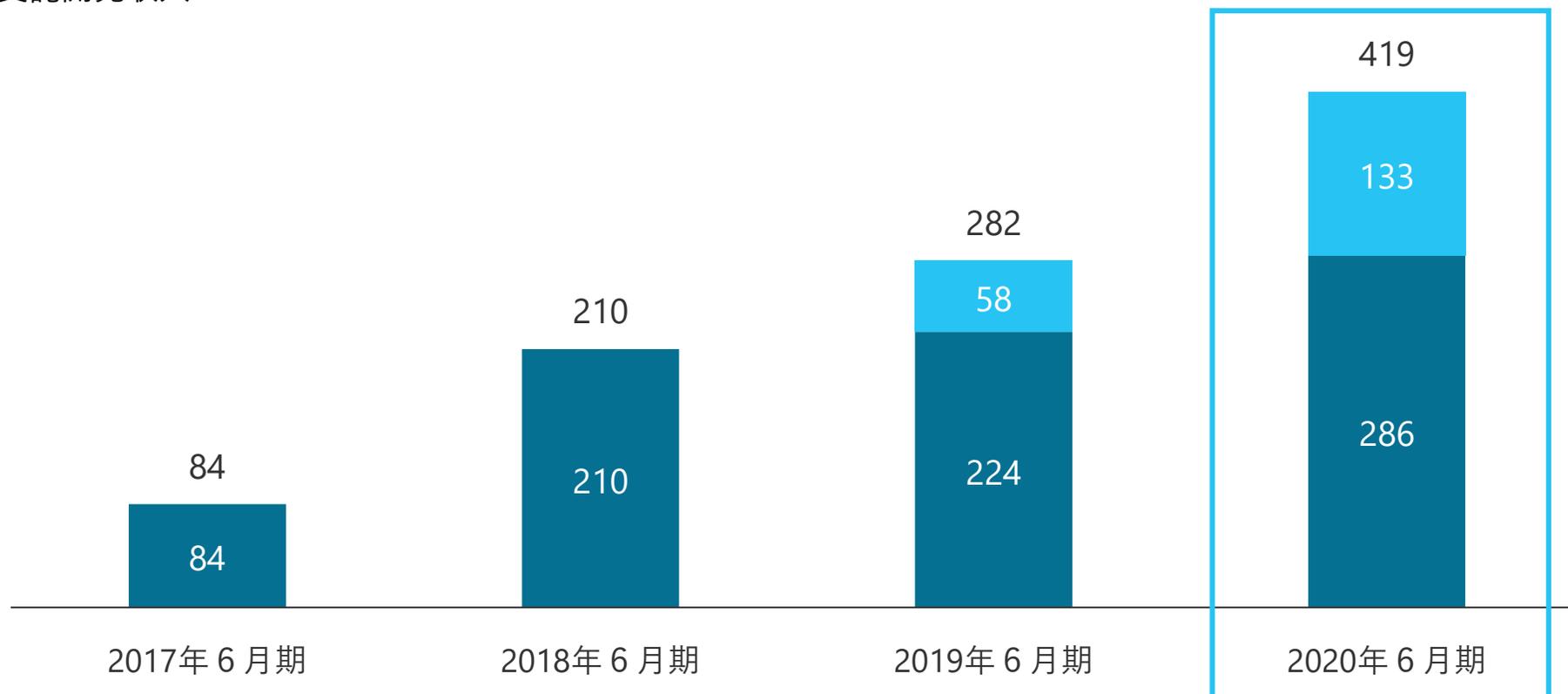
(単位：百万円)



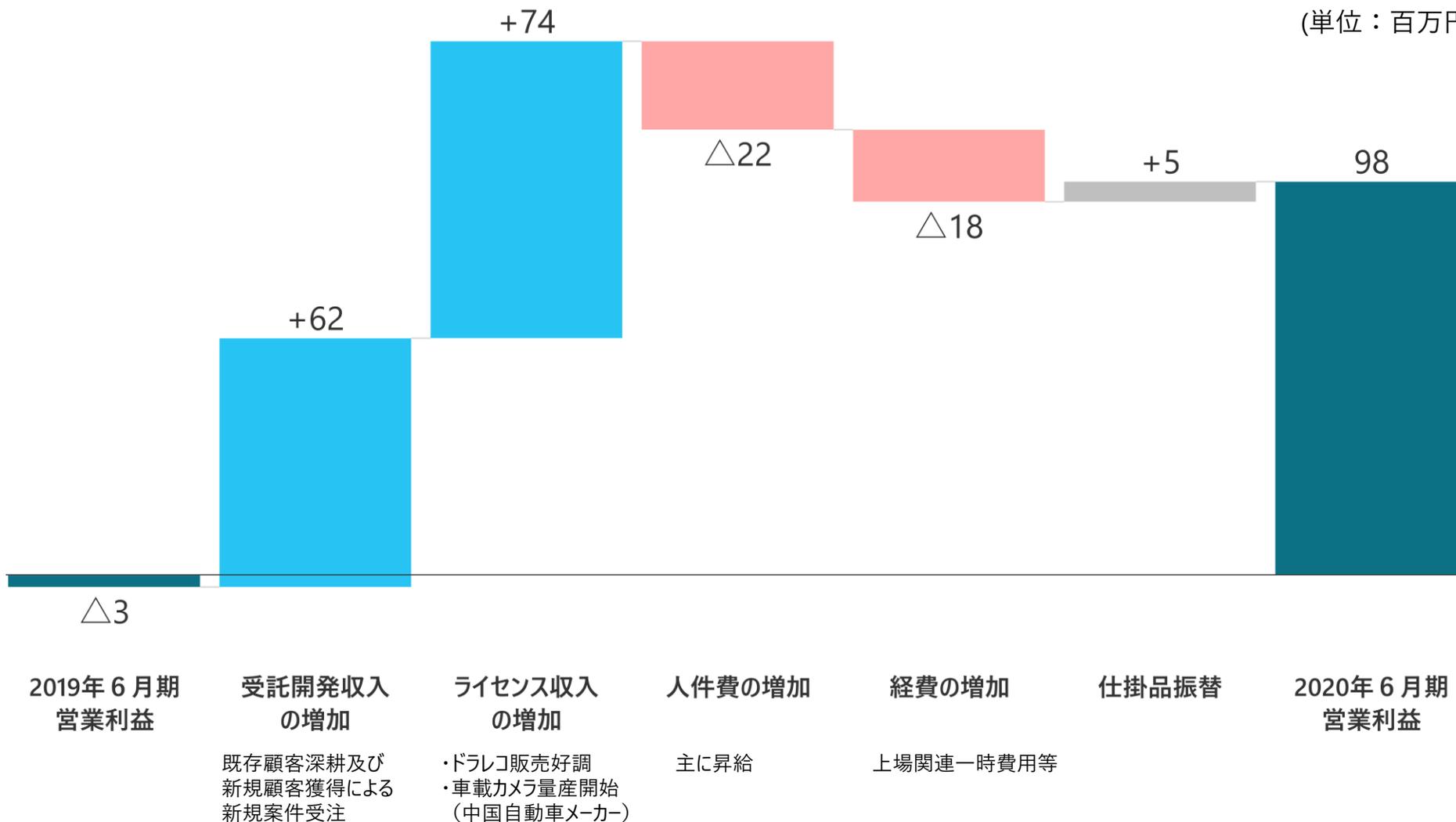
- ・2020年6月期ライセンス収入は、量産済みのドライブレコーダー案件の販売好調により増加
- ・2020年6月期受託開発収入は、既存顧客からの新規案件受注及び新規顧客獲得により増加

■ ライセンス収入  
■ 受託開発収入

(単位：百万円)



(単位：百万円)



- ・IPO時の資金調達により現金及び預金並びに純資産が増加
- ・4Q売上高増加（19/6：49百万円⇒20/6：108百万円）に伴い売掛金が増加

(単位：百万円)

	2019年6月期末	2020年6月期末	
	前期実績	当期実績	前期末との差異
流動資産	401	527	+126
現金及び預金	339	419	+79
売掛金	43	100	+57
その他	17	7	△10
固定資産	48	50	+2
資産合計	449	578	+128
負債合計	62	53	△9
純資産合計	386	524	+137
負債・純資産合計	449	578	+128

【営業C F】売掛金残高が増加したものの、税金等調整前当期純利益の計上によりプラスに転換

【投資C F】2019年6月期、2020年6月期ともに、大半が非経常的支出

【財務C F】主にIPO時の公募増資により増加

(単位：百万円)

	2019年6月期	2020年6月期	
	前期実績	当期実績	前期との差異
営業活動によるC F	△1	36	+37
税金等調整前当期純利益	△5	90	+96
償却費	7	19	+11
その他	△3	△73	△70
投資活動によるC F	△47	△18	+28
財務活動によるC F	△5	62	+67
現金等の換算差額	△2	△0	—
現金等の増減額	△55	79	—
現金等の期末残高	339	419	+79

1. 会社及び事業の概要

2. 業績ハイライト

3. 2020年6月期（通期）決算概要

4. 今後の業績予想と成長戦略

## Appendix

- ・外部環境
- ・技術／製品 OVERVIEW
- ・技術／製品の適用事例
- ・四半期決算情報
- ・経営体制

# Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、  
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

## 2021年6月期業績予想

- ・受託開発収入は、新型コロナウイルス感染症に伴う一部顧客の開発予算縮小により一時的に減少する見込み
- ・ライセンス収入は、大手自動車メーカーの新車向け車載カメラ案件が量産開始予定
- ・今後も複数案件の量産開始を予定しており、2～3年後にはライセンス収入が受託開発収入を上回る見込み

(単位：百万円)

	2020年6月期	2021年6月期	
	当期実績	翌期予想	当期比
売上高	419	454	+ 8.2%
うち、受託開発収入	285	260	△8.8%
うち、ライセンス収入	133	193	+ 44.7%
売上原価、販管費	321	353	+ 10.1%
うち、人件費	193	228	+ 18.0%
うち、経費	123	125	+ 1.4%
うち、仕掛品振替	4	—	—
営業利益	98	100	+ 2.2%
経常利益	90	100	+ 10.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	66	70	+ 5.9%

1

## 車載ソフトウェア事業の更なる拡充

今後もニーズの拡大が予想される車載用画像認識ソフトウェアの開発及び販売を進めることにより、事業の拡大と高い成長性を継続する方針です。

2

## ディープラーニング技術の開発加速

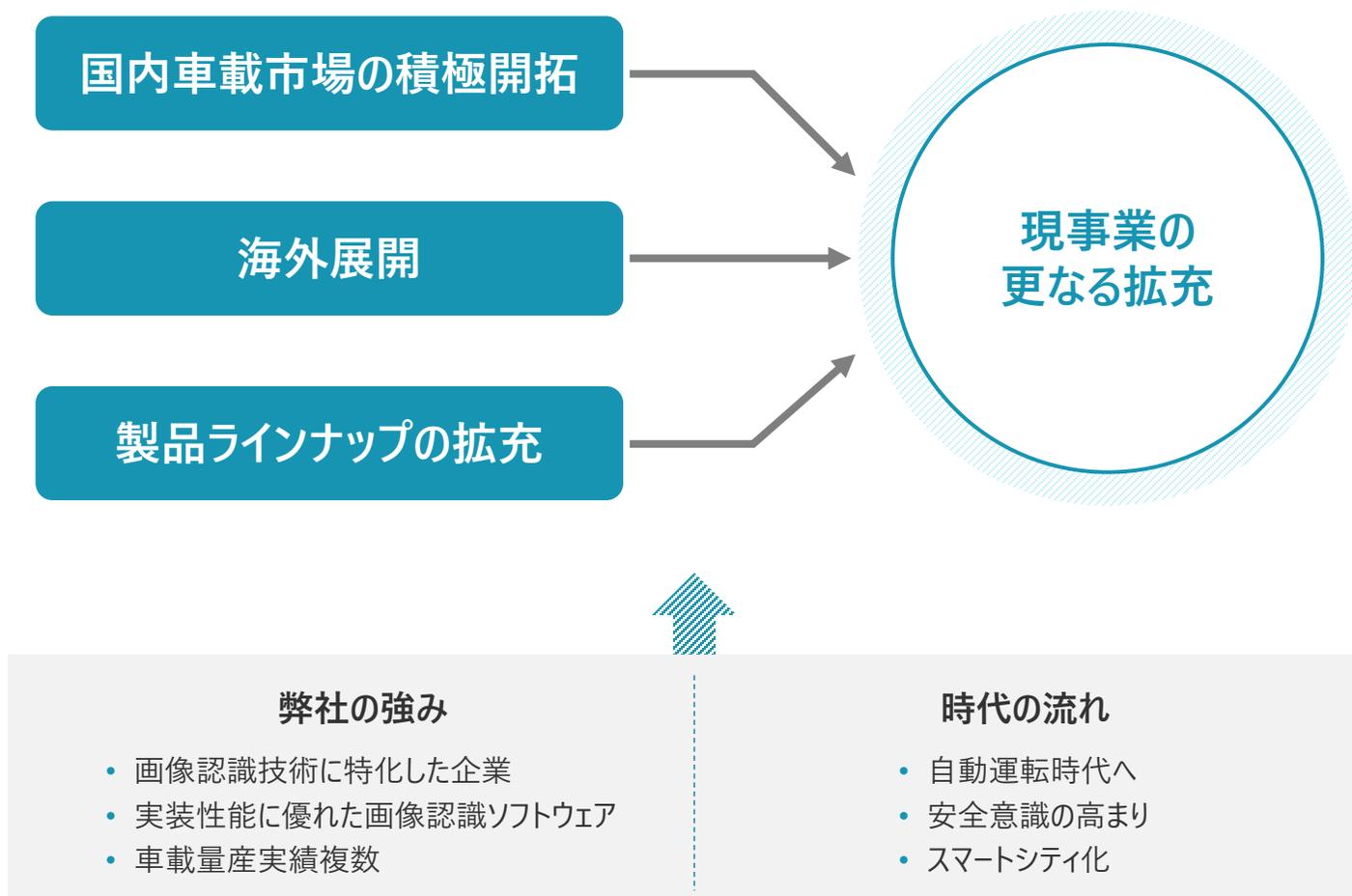
今後、一層の高性能化が期待される画像認識分野において、ディープラーニングは必要不可欠な技術となります。当社では、ディープラーニング技術の研究開発を促進し、新規案件の獲得に努めます。

3

## インフラ、ホーム、ヘルステック等の他市場への展開

今後、インフラや家電等の様々な市場において、画像認識技術が一層普及してくるものと考えられます。当社としても、他の分野にも積極的に進出し、事業の拡大を図っていく方針です。

- 今後も拡大する車載用画像認識ソフトウェア市場において、引き続き開発/販売を進め、事業の拡大と高い成長性を継続



## 実用性を重視した研究開発

- 検知、認識、セグメンテーション技術の更なる進化
- 車載、インフラ、ヘルス向け応用技術ソリューション
- ディープラーニング開発の自動化

## 大規模自社データベースの構築

### 自社で車載画像を大量収集

- 歩行者・車両・ナンバー・車線・標識・信号などをタグ付け
- 認識しにくいシーン、レアケースなども継続的に収集



少ない顧客データで高性能なディープラーニングモデルを開発可能に

## コア技術×ノウハウ×AutoDL による案件開発の自動化

ADAS、DMSの多数案件で蓄積したコア認識技術、ノウハウ

+

独自のAutoDL技術（自動化開発プラットフォーム構築）

- 案件開発プロセス（アノテーション⇒モデル設計⇒学習⇒検証）を自動化



低コストかつ迅速なマス・カスタマイゼーションを実現

（機能組み合わせ、カメラ、ハードウェアなど）

- 車載市場で培った技術力を、今後伸長するインフラ、ヘルステック市場などに積極的に進出し、事業の拡大を図っていく方針です。

	モビリティ	スマートインフラ	ホームヘルステック
キーワード	自動運転 運転支援 運転手監視	スマートシティ 自動運転対応交通網 ロボット共存	家電制御 介護支援 遠隔医療・健康管理
量産実績あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ADAS (衝突警告等)</li> <li>• DMS (運転手監視)</li> <li>• 違反検知</li> <li>• 車線検知</li> </ul>	—	—
技術保有	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ナンバープレート認識</li> <li>• 電子ミラー対応</li> <li>• ライト制御</li> <li>• 視線検知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 交通監視</li> <li>• 道路状態検知</li> <li>• 標識・看板認識 (OCR)</li> <li>• 照明制御</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 病理映像解析</li> <li>• 家電制御 (エアコン等)</li> <li>• 感情分析</li> <li>• 疲労検知</li> </ul>

1. 会社及び事業の概要
2. 業績ハイライト
3. 2020年6月期（通期）決算概要
4. 今後の業績予想と成長戦略

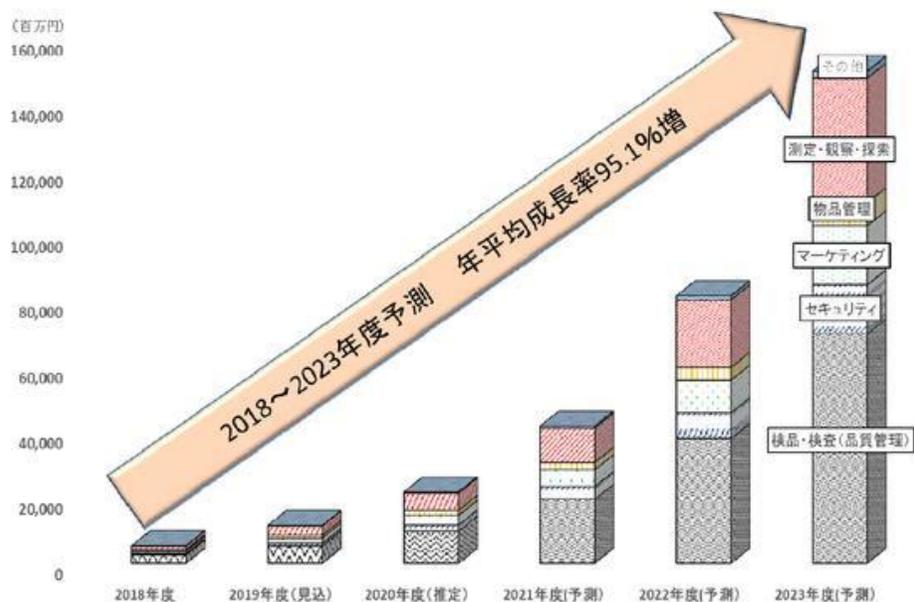
## Appendix

- ・外部環境
- ・技術／製品 OVERVIEW
- ・技術／製品の適用事例
- ・四半期決算情報
- ・経営体制

# Make Things Intelligent

あらゆるモノのインテリジェント化を目指し、  
スマート社会の安全や快適、効率に貢献します。

### ディープラーニング（深層学習）を活用した画像認識の市場規模



労働人口不足、働き方改革、インフラの老朽化など  
社会問題の解決策として導入が加速

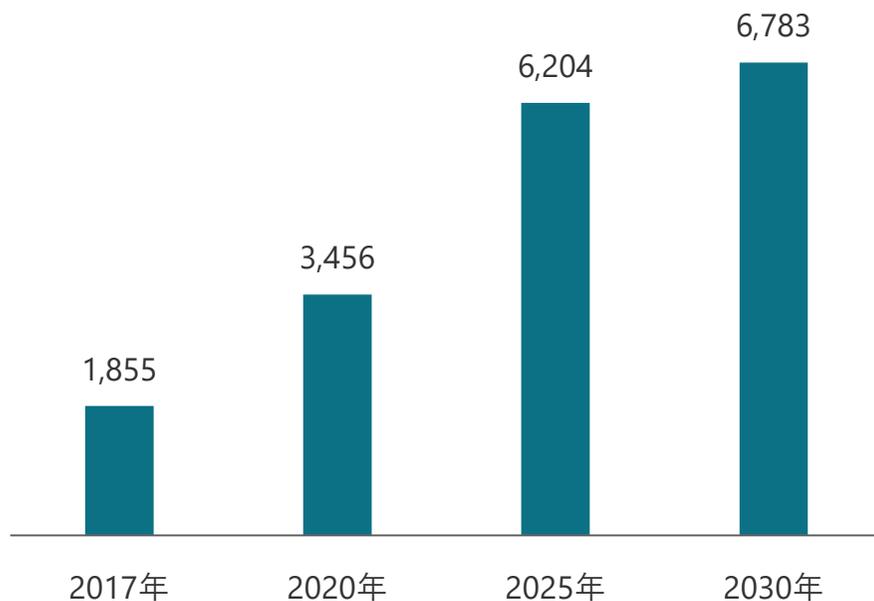
2018~2023年度まで、年平均成長率 **95.1%** 増  
2023年度には **1,500** 億円市場

出典：ミック経済研究所  
「AI（ディープラーニング）活用の画像認識ソリューション市場の現状と展望 2019年度版」  
2019年10月4日プレスリリース

■ 高齢者ドライバーによる自動車事故の増加等に伴い先進運転支援システム（ADAS）に注目

日本の車載用画像認識ソフトウェア市場推移

(単位：百万円)



ADASや自動運転には、歩行者や信号、標識等を認識する画像認識ソフトウェアが必要不可欠。

今後、ドライバー監視（DMS）も含め、急速に拡大することが見込まれています

出典：矢野経済研究所  
「ADAS/自動運転用センサ世界市場に関する調査（2018年）」  
2018年6月29日発売 を元に当社推計

- 後方検知、側方検知は非常に重要な技術としてニーズが更に高まる
- 自動運転時代へ向かい、運転手監視も重要なアイテム

**完全自動走行（レベル4）への過渡期**

				実用化	計画
完全自動走行システム	レベル4	加速・操舵・制動全てをドライバー以外が行い ドライバーが全く関与しない状態			
準自動走行システム	レベル3	加速・操舵・制動全てをシステムが行う状態 但し、システムが要請した時はドライバーが対応		2020年目途	
	レベル2	加速・操舵・制動のうち複数の操作を 同時にシステムが行う状態		2020年まで	
安全運転支援システム	レベル1				
運転支援なし					

自動運転レベルは道路環境に応じて変化



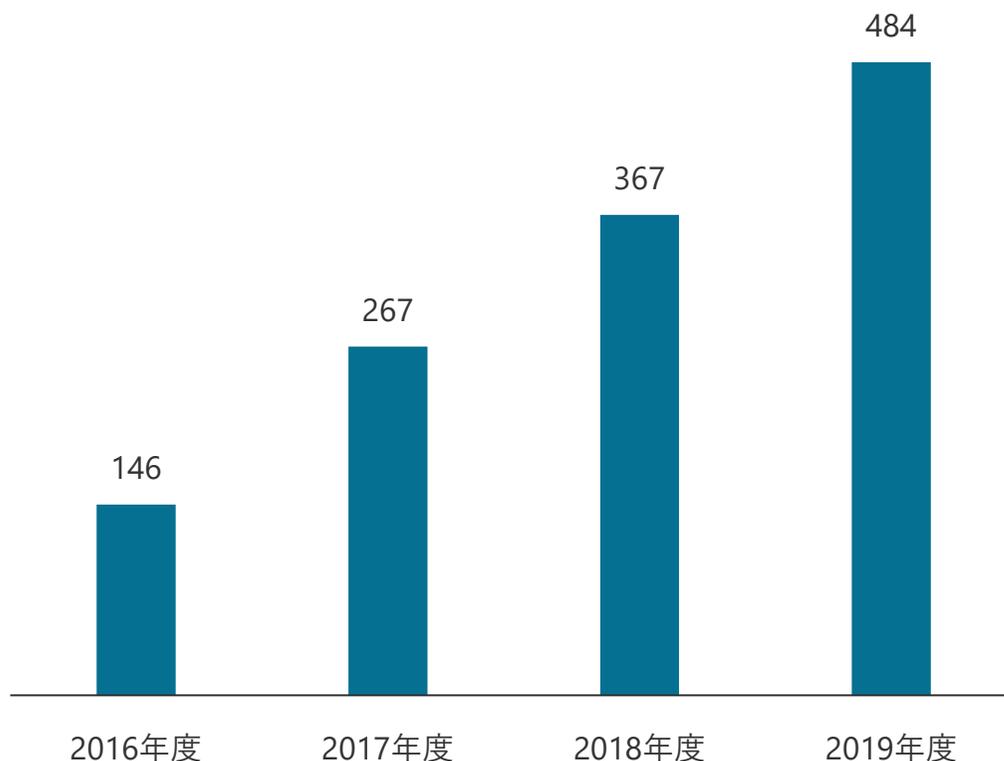
いずれのレベルにおいても、ドライバーはいつでもシステムの制御に介入することができることが前提。準自動走行システム（レベル3）及び完全自動走行システム（レベル4）については、民間企業による市場化が可能となるよう、政府が目指すべき努力目標の時期として設定。

出典：戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）自動走行システム研究開発計画（内閣府）より引用  
[http://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/sip/keikaku/6\\_jidousoukou.pdf](http://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/sip/keikaku/6_jidousoukou.pdf)

■ あおり運転等、他車の危険運転からの防衛意識から出荷台数が大きく伸びる

ドライブレコーダー出荷台数

(単位：万台)



- 従来の前方映像の記録だけでなく、リアカメラや360度カメラなどのニーズも拡大
- ドライブレコーダー付き自動車保険の登場や法人向けのドライブレコーダーを使用したサービスも注目

## 車載・ドライブレコーダー向け画像認識ソフトウェアソリューション

精度と実装性を兼ね備えたアルゴリズム

### 画像認識ソフトウェア技術

ディープラーニング(DL)

非ディープラーニング

画像処理

+

車載用ソフトウェア特有のノウハウ

+

LSIへの実装技術



### 安全、安心、効率化に貢献する多様なソフトウェアラインナップ

#### モビリティ検知認識

歩行者検出  
縁石検出  
信号認識  
四輪車検出  
二輪車検出  
標識認識  
車線検出  
横断歩道検出  
フリースペース検出



#### 顔検知認識

顔特徴点検知  
顔検知  
顔認証  
顔向き推定  
視線推定  
顔属性推定  
(マスク、眼鏡、性別、年齢、表情)



#### HMI\*検知認識

\*ヒューマンマシンインターフェイス  
ジェスチャー認識  
全身姿勢推定  
危険動作認識  
(喫煙、ドリンク、電話)





## 『汎用LSIで動く』軽量ADASソフト

歩行者、車両、バイク、標識、車線などを高精度に検出



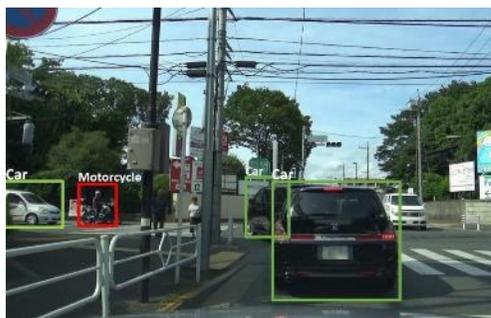
### 歩行者衝突警報 (PCW)

- 歩行者、自転車の検知
- 歩行者衝突警報



### 車線逸脱警報 (LDW)

- 車線と車両間の位置を検出
- 車線逸脱、ふらつき警報



### 前方車衝突警報 (FCW)

- 前方車両の検知
- 前方車衝突警報
- 衝突被害軽減ブレーキ



### 標識検知 (TSD)

- 標識検出を利用した交通違反の検知



## 『汎用LSIで動く』ディープラーニング

車内カメラによってドライバーの運転状態を監視し、危険運転・事故防止を目的としたシステム

特別なハードウェアを必要とせず、汎用CPUで実現可能



### 顔認証

- ドライバーを識別し、シート位置を自動調整



### 危険運転検出

- 運転中の電話、飲食、喫煙を検出



### よそ見運転

- 顔の向き等から運転中のよそ見を検出



### 居眠り運転検出

- 目の状態、顔の角度、あくび頻度等から居眠り状態を検出

(単位：百万円)

	2019年6月期				2020年6月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	77	52	102	49	62	101	147	108
うち、受託開発収入	69	37	75	11	36	58	117	73
うち、ライセンス収入	8	14	27	38	26	42	29	35
※売上原価	26	19	26	19	28	23	34	32
売上総利益 (粗利率)	51 65.9%	32 61.7%	76 74.6%	29 60.0%	32 51.3%	79 78.1%	113 76.9%	75 70.1%
※販管費	33	55	49	54	52	50	43	55
うち、研究開発費	10	21	14	18	16	14	6	10
営業利益 (営業利益率)	17 22.5%	△23 △44.8%	27 26.8%	△25 △50.7%	△18 △29.3%	26 26.2%	70 47.5%	20 18.8%

※原価＋販管費合計	60	76	75	75	81	74	77	87
うち、人件費	36	41	44	48	49	49	48	47
うち、経費	16	27	29	31	28	28	29	37
うち、仕掛品振替	6	6	1	△5	3	△2	△0	3

代表取締役社長

## 脇 健一郎

キヤノン株式会社にて電子写真の技術開発に従事。1999年に同社を退職後、画像系ベンチャー数社で研究開発、経営戦略、営業企画等に従事。2008年に当社を創業。レンズ検査装置、三次元計測事業を展開するが、これらを分社化し営業譲渡。2012年から曹CTOの画像認識技術をベースに本事業を再スタート。



代表取締役CTO

## 曹 暉

2007年、名古屋大学大学院情報科学研究科知能メディア専攻博士課程修了。博士（情報科学）取得後、独立行政法人理化学研究所、株式会社豊田中央研究所にて物体認識に関する研究開発に従事。2012年に当社入社、画像認識事業を立ち上げ。2013年当社取締役就任、2017年当社代表取締役CTO就任（現任）。



取締役CFO

## 横田 和之

2011年、神戸大学経営学部卒業。同年あずさ監査法人（現有限責任 あずさ監査法人）に入社し、東証1部上場企業等に対する法定監査業務に従事。2017年当社へ入社し、管理業務を担当。2018年、当社取締役CFO就任（現任）。同年、北京飞澈科技有限公司監事就任（現任）。



社外取締役

## 茂田井 純一

大手監査法人にて法定監査業務に従事した後、東証マザーズ開設の1999年に企業公開部へ異動。以来、現在に至るまで多数のIPO案件に継続的に関与し続けている。中堅税理士法人を経て2008年株式会社アカウンティング・アシストを設立し代表取締役に就任。IPO準備会社・上場企業の支援を行う傍ら、各社の非常勤取締役・非常勤監査役に就任し、コンサルティングのみならず企業の意味決定やガバナンスにも関与している。2018年より当社非常勤取締役（現任）

本資料は、当社の業界動向及び事業内容について、現時点における予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来展望についても言及しております。

これらの将来展望に関する表明の中には、さまざまなリスクや不確実性が内在します。既に知られたもしくは未だに知られていないリスク、不確実性その他の要因が、将来の展望に関する表明に含まれる内容と異なる結果を引き起こす可能性がございます。

当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

本資料における将来展望に関する表明は、本資料公表日現在において利用可能な情報に基づいて当社によりなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して、将来展望に関するいかなる表明の記載も更新し、変更するものではありません。

### IRに関するお問い合わせ先

フィーチャ株式会社 管理部

E-Mail : [management@ficha.jp](mailto:management@ficha.jp)